

蔵出しお宝ニュース

— 第 55 号 —

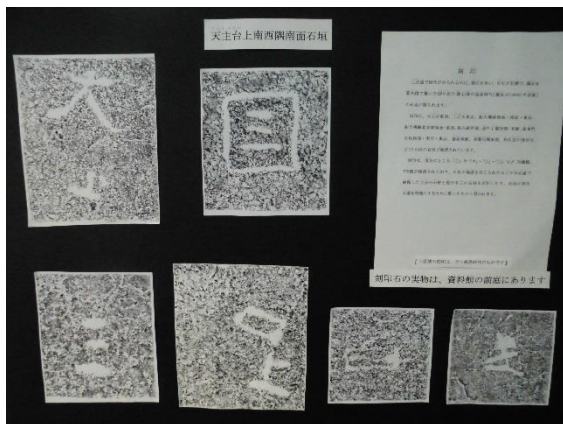
「三原城の石垣たくほん—拓本展—」開催中

三原市の中心部にあり、国史跡の指定を受けている三原城。その石垣には、所々に「刻印」と呼ばれる印が彫られています。

現在、三原市歴史民俗資料館 1 階展示室では、この刻印のある石「刻印石」をはじめとして、石の加工跡である矢穴跡などの形を紙に写し取った、「拓本」を展示しています。



↑企画展の様子



↑実際の拓本，「刻印」が浮いて見える

石垣の刻印は、三原城がどの時代に改修をして、規模が大きくなっていったのかを知る、非常に有益な資料です。刻印が見られる石垣は、小早川氏の後、関ヶ原の戦いの後から江戸時代初期にかけて三原城に入っていた、福島氏の時代が多いと推測されます。これは、他の福島氏の城の石垣で見つかっている刻印が、三原城の石垣にも多くあるからです。

また、石の加工跡である、「矢穴跡」も当時の石材の加工技術と照らし合わせて、その石垣がいつ積まれたものであるかを考察することができます。

拓本を採り、資料化することは、考古学の分野における研究手法です。例えば、土器に付けられた細かい模様などを拓本にすることで、より鮮明に視覚化し、後続の研究につなげていくことができます。

今回の企画展、「三原城の石垣—拓本展—」は、10月31日まで開催しています。ぜひ、資料館にお立ち寄りください。

拓本について

今回の企画展で展示している三原城石垣の拓本は、歴史民俗資料館専門委員 委員長の福井万千さんが、2年半の歳月をかけて収集したものです。

では、実際にどのような方法で拓本を採るのかを解説します。



↑ 拓本を採るための道具

左から、墨（二種）、タンポ、脱脂綿と刷毛



採拓中、紙に墨を付けているところ

↑ 福井さんが実際に拓本を採っている様子

拓本のうち、今回紹介するものは「湿拓^{しつたく}」で、左に掲載しているような道具で収集します。

手順は、紙を資料に対して程よい大きさに切ります。その紙を資料の拓本を採りたい面の上に置きます。次に、水を含ませた綿や刷毛、布などで資料の模様を浮かび上がらせるように紙を貼り付けながら、細かい形を浮かび上がらせます。

その後、紙が白くなるくらいに乾いたら、拓本用の墨を、てるてる坊主のような形状のタンポ（綿を布で包んだもの）に含ませ、もうひとつ用意したタンポと打ち合わせて、墨をなじませます。なじんだところで紙に墨を叩いていきます。

この時、資料に墨がつくようなことがあってはいけません。

そうして、墨で資料の形を浮かび上がらせたものを、綺麗に資料から剥がすと、拓本の完成です。

拓本を採るためのセットは、通信販売等で購入することができます。紙や墨が特殊なため、まずはこれを購入するのがよいでしょう。

拓本は、回数を重ねるたびに上達していくものです。また、今回紹介したやり方も一例であり、人によって使う道具も、その使い方もまちまちです。

まずは、有識者の方に話を聞いて、一緒に行うのが一番でしょう。

資料館 収蔵資料紹介



- 〔名称〕 ナウマンゾウの臼歯
〔時代〕 原始（約1万5000年前）
〔情報〕 重さ 1105グラム
大きさ 縦165ミリ 横125ミリ
二階常設展で展示中
〔一言〕 ナウマンゾウの臼歯は、板が集まったような形をしています。

発行 平成29年10月10日

〒723-0015 三原市円一町二丁目3番2号

三原市歴史民俗資料館

TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用されないようお願い申し上げます。